

## 第 14 回川部会 WG（本川モデル 7 回）の進め方

H25.10.18

## 1. 第 14 回 WG について

## (1) 今年度の本川モデルの開催状況

今年度の川部会WG（本川モデル）は、本日が 3 回目の実施です。今後、国土交通省から示される「矢作川水系における総合土砂管理計画策定に向けた提言書骨子（案）」（仮称）に対して、市民や矢作川流域圏懇談会として、瀬・淵など川のあり方、理想像、方向性等についてどう考えるか、意見交換を行います。

## 【今年度のスケジュール】

**第 5 回 WG：現地調査（事業実施状況の確認・改善策の提案）** 5 月 17 日（済）

**第 6 回 WG：瀬・淵、支川合流点の現地調査と意見交換** 7 月 12 日（済）

**第 7 回 WG：籠川合流点上下流の瀬・淵の現地調査と意見交換** 10 月 18 日（本日）

**第〇回 WG：瀬・淵のあり方、方向性について意見交換** 〇月〇日（予定）

## (2) 本日の進め方

本日のWGは、矢作川本川の現地調査（約 2.0 時間）と意見交換（約 2.5 時間）の 2 部構成で行ないます。

- 1) 開催日時 : 平成 25 年 10 月 18 日(金) 13:00~17:40
- 2) 集合場所 : 新豊田駅集合・出発
- 3) 会議場所 : 豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室  
住所 : 〒471-0025 愛知県豊田市西町 2 丁目 19  
電話 : 0565-34-1933
- 4) 参加対象者 : 市民・関係団体・学識者・行政

**第 1 部：現地調査 13:00~15:00（約 2 時間） 場所：矢作川本川**

台風 18 号による被災状況と県管理区間の代表的な瀬淵を現地確認し、瀬・淵の現状や課題について確認し、意見交換します。

**第 2 部：意見交換 15:10~17:40（約 2.5 時間）****場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室**

意見交換では、グループワークと全体ワークにより、「瀬・淵」についての意見交換を行ないます。

- ① 瀬・淵の現状と課題、瀬・淵の保全、創出の方向性について意見交換
- ② 次回以降の WG の活動日時・内容について調整

## 2. 矢作川現地調査について

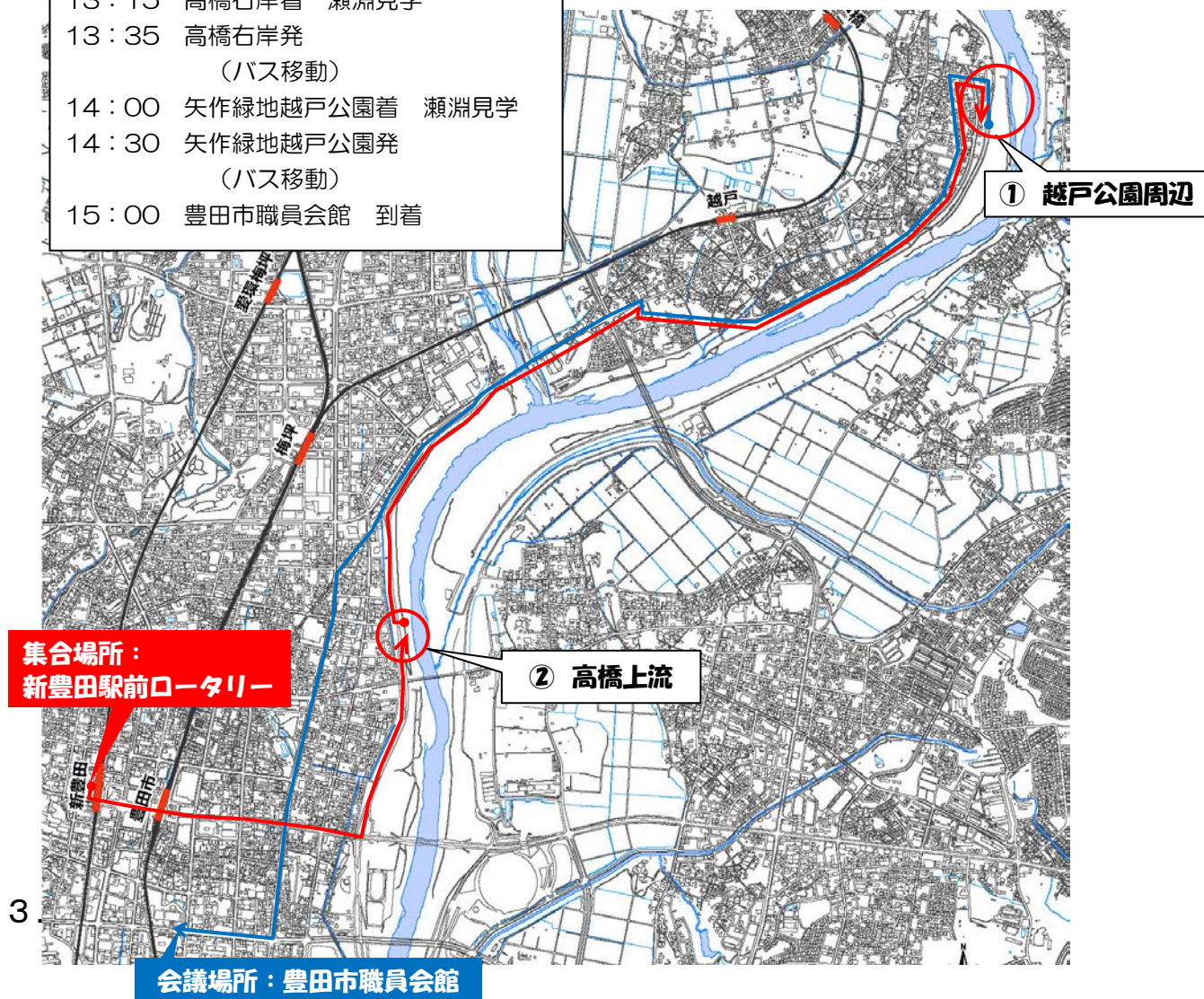
現地を見ながら、活動の効果の確認や、現状の課題等について意見交換します。  
調査箇所と主な視察ポイントは、以下に示すとおりです。

### 【現地調査箇所】

No.	場所	活動団体・管理者 (説明者)	主な視察ポイント
①	高橋上流の瀬・淵	国交省・漁協	台風18号による被災状況の確認
⑤	越戸公園付近の瀬・淵	愛知県	県管理区間の代表的な瀬淵の状況の確認

### 【現地見学ルート】

【タイムスケジュール】	
13:00	新豊田駅集合・出発 (バス移動)
13:15	高橋右岸着 瀬淵見学
13:35	高橋右岸発 (バス移動)
14:00	矢作緑地越戸公園着 瀬淵見学
14:30	矢作緑地越戸公園発 (バス移動)
15:00	豊田市職員会館 到着



## 意見交換について

グループワークと全体ワークにより、「瀬・淵」についての意見交換を中心に行ないます。意見交換のすすめ方は、以下に示すとおりです。

### ■ 意見交換のすすめ方

#### 【グループワーク（70分）】

2つのテーブルに分かれて、皆さんの思う視点で瀬・淵の現状と課題、瀬・淵の理想の姿について、意見交換を行ないます。

- ① まずは、「瀬・淵の現状をどう捉えているか」について、**具体的な場所**を想像して、付箋に書き留めてください。（5分程度）

良いと思う瀬・淵について ⇒ ■水色の付箋を使用

改善が必要と思う瀬・淵について ⇒ ■ピンク色の付箋を使用

記載例1：瀬S<sub>1</sub>では、（河床がやわらかくて、）鮎がよく釣れる。産卵する。

記載例2：淵P<sub>3</sub>では、（水際の河畔林が豊かで、）魚が多い。

※ どういう視点で評価するとなのかも、付箋に書き留めてください。

#### [瀬・淵を考える視点の例]

- ・瀬淵の形状、適度な水深・流速、水質、適度な攪乱による河床変化
- ・河床材料の構成（粒度・粒径）、空隙率、河床の状況（浮き石等）
- ・魚類の生息、魚類の餌（付着藻類）、鮎の産卵
- ・鮎等の遊漁利用、観光資源 など

#### [改善するときの視点の例]

- ・砂州の固定化や樹林化の防止、適度な攪乱の発生
- ・必要な水深や流速の確保、河床材料の粗粒化の防止（置土など）
- ・オオカナダモ、カワシオグサなど外来種の駆除 など

- ② 順番に意見（付箋に書いた内容）を発表しながら、テーブル上の大判図面に付箋を貼り付けます。

※ 大判図面の中で、できるだけ具体的な位置を特定してください。

- ③ 上記の発表を進めながら、具体的に以下の内容について意見交換を行います。
- 良い瀬・淵の具体的場所
  - 瀬・淵を評価する視点
  - 瀬・淵が良いと思う理由
  - 改善が必要と思うこと

【全体ワーク（80分）】

- ④ 各グループで意見交換した内容について発表し、意見交換します。（20分）  
（各グループ5分、発表後に意見交換10分）
- ⑤ 参加者全員で、これまでの瀬・淵の検討を踏まえて、矢作川河川環境の方向性について検討します。（40分）
  - 1) 流域圏としての目標設定について
    - － 流域圏としての目標をどう設定するか。  
例1：現状の河川環境の維持  
例2：かつてのすばらしい矢作川の河川環境の回復
    - － 最低限確保したい河川環境とは何か。
  - 2) 今後示される提言書について
    - － 具体的にどのような内容を知りたいか。
    - － 今後想定される対策手法（土砂バイパス、置土等）に対して、流域圏（川部会）として、意見を出すか。
    - － 今後、WGとしてどの場所を中心に検討していくか。
- ⑥ 次回以降の活動（活動日時・内容）を調整します。（20分、資料5）
  - － 第15回WG：家下川モデル7回 or 本川モデル8回  
候補日：11/26（火）夜 予定
  - － 第16回WG：地先の課題モデル3回（予定）、候補日：12月予定  
※ 本日のWGを踏まえて、モデルの設定も含めて検討ください。
  - － いい川づくりワークショップについて

## 4. 地域部会「川部会 WG（本川モデル）」について（参考）

### （1）本川モデルの概要

矢作川本川から見た「魚の棲みやすい川づくりをテーマにした上下流問題」をテーマとして扱うこととし、**鵜ノ首橋下流（36.8km 付近）～越戸ダム付近をモデル地区に設定**し、情報共有や解決手法の検討を行います。

検討にあたっては、様々な立場のみなさまに参加していただき、課題解決に向けた意見交換を行ないます。尚、矢作川本川における主な関係団体は、以下のとおりです。

関係団体（例）：矢作川森林塾、矢作川水族館、矢作川漁協、天然アユ調査会  
明治用水土地改良区、中部電力、矢作川研究所  
豊田市、愛知県、国土交通省 等

### （2）運営方針（案）

- 本川モデルの課題は多岐に渡るが、WGでの取り組み効果が期待できる「**①本支川合流箇所について**」と「**②良い瀬淵・ワンドについて**」の課題を、**まずは優先**して取り組む。
- ①～②の課題の各検討段階は、WGメンバー全員、もしくは有志が中心となり実施する。
- 以上の成果を、矢作川の将来あるべき姿の検討に反映していくものとする。

#### 活動内容（案）

- ① 本支川の合流箇所について（生き物の往来と阻害）
  - 基礎調査を元にした**現地調査の実施、カルテ（案）作成**
  - **カルテ（案）に基づく現状評価の実施**（支川上流も対象）
- ② 良い瀬淵・ワンドについて（③とも関連）
  - **現地現状調査の実施、カルテ（案）作成**
  - **カルテ（案）に基づく現状評価の実施（場と認識の共有）**
  - 可能であれば動態の技術的な検討
  - **良い瀬淵・ワンドの維持・復元に向けた提案**
- ③ 河床のアーマーコート化と近年後の変遷について（②とも関連）
  - 今後も**水系総合土砂管理検討委員会、各ダム管理者との連携・情報共有を基本**
  - 可能であれば、詳細な検討の実施（例：必要な土砂の粒径など）
- ④ 外来種対策について
  - **外来種の駆除活動に参加し、駆除活動の充実と駆除方法等の改善**を検討
- ⑤ 在来種の減少について
  - 在来種の生息状況について情報共有を促進
  - **WGメンバーで「本来、どんな魚や生物がいるべきか」**を検討（情報資源活用）